



今月の話題

- コロキウム、ジェネラルミーティング、親善パーティー
- 中南米地震工学コース 関西研修旅行レポート
- 中南米地震工学研修行政官コース修了

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

コロキウム、ジェネラルミーティング、親善パーティー

国際地震工学センター 飯竹理広

現在、通年研修の研修生は、6月1日から、修士論文を書くため、個別にそれぞれの指導者の下で個人研修をしています。今年は、約半数の10名の研修生が、つくばから全国(北海道から岡山県)に移動して勉強をしています。

IISEEでは、それに先立ち、5月30日(火)、31日(水)の二日間、研修生の個人研修レポートの概要を発表する「コロキウム」や、研修生が講義や日常生活などについての感想や気が付いたことについて意見を述べる「ジェネラルミーティング(GM)」を行いました。

更に、GMに続いて、明日から始まる個人研修を乗り切ることができるようにと、親善パーティーを開きました。パーティーでは、IISEEの女性スタッフが企画して定期的に開催している「お誕生日会」が行われ、心のこもったプレゼントと手作りのカードが手渡されました。



コロキウム・ジェネラルミーティング

中南米地震工学コース関西研修旅行レポート

(Mr. Eduardo Hurtado チリ)

論文募集

IISEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



まず初めに、ラテンコースの研修生のために素晴らしい研修旅行を計画してくださった JICA、並びに建築研究所の皆様感謝を申し上げます。

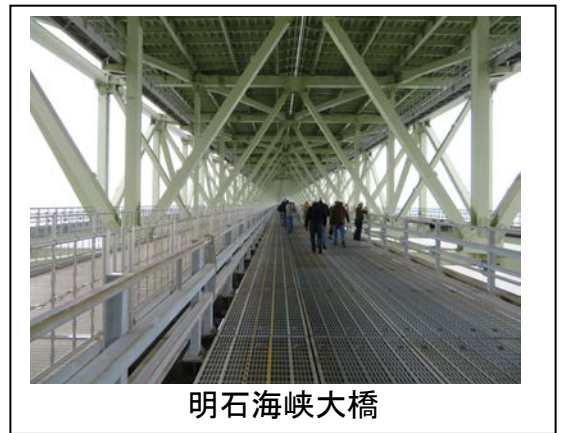
今回の関西への研修旅行は私たち皆にとって大変有意義なものでした。まず、交通手段として使った新幹線を楽しみながら名古屋へ行き、素晴らしい城を訪れました。復元された城を見ると、まるでその時代に戻ったかのように感じられました。その後は神戸へ行き、人と防災未来センターを訪れました。私たちが見た阪神・淡路大震災のビデオでは、地震で姉妹を亡くした少女が、何か人の助けになることをしようと決意し、姉妹を思いながら看護の勉強をしていました。

さらに私たちは明石海峡大橋を訪れ、普段は入ることのできない橋の内部をガイドとともに歩きました。橋の一部の塔頂から全体を見下ろし、橋を支える特有の構造も見学しました。この素晴らしい訪問と、技術の知識を得られたことにとっても感謝いたします。

最後に訪れた京都では、伝統的な木造構造を、同じ種類の木材を使って維持する技術や、木片をはめ込む屋根の構造に感銘を受けました。京都南区にある東寺はとても古い建造物で中心を軸として地震の揺れに合わせて動く構造をしています。1000年以上も前から地震で倒壊したことがなかったという事実は信じられないくらいです。

私たちは今回の旅の記憶を忘れずに、自分たちの国をよりよくするために働いていきたいです。そしてまた互いに会えることを願っています。

(Ms. Magda CASTILLANOS エルサルバドル)



明石海峡大橋



私たちの旅はまず名古屋城から始まり、天気にも恵まれたため、きれいな庭を見ることができました。城の見学はとても素敵で、外観は素晴らしく、内部には昔の人々の生活に関する資料を展示した博物館が各階にあり、最上階は展望台になっていました。

神戸もまた素晴らしい所です。人と防災未来センターは震災と復興の記録を残していくために必要不可欠であり、市全体で記念公園や像として歴史を残しています。明石海峡大橋と橋の科学館を見学し、建設の工程や、震災後の再建、メンテナンスの方法を知る恵まれた機会も得られました。





楽しむのは今です。

橋の塔頂まで登ったことは今までの人生の中で比類のない経験です。野島断層保存館は自然の力に畏怖を抱かせる素晴らしい例です。東寺への訪問は素晴らしく、修復現場に入ることが出来ました。金閣寺では美しい景色の中を歩きました。同志社大学の煉瓦造りの建物は建築工学の面から見ても驚くべきものでした。そして伏見稻荷大社の千本鳥居は旅の最後にふさわしいものでした。

(Mr. Roberto AMADOR ニカラグア)



まず初めに、この美しい国に滞在し、中南米の仲間と時間を共有する機会をくださった JICA 及び建築研究所の皆様へ感謝を申し上げます。また、この研修旅行で見学の機会をくださった会社、並びに機関にも感謝いたします。私達が得られた知識のすべては、私達一人ひとりにとって忘れられないものとなるでしょう。

会議や視察を通して日本の人々が直面した大災害と、困難を克服した出来事を深く知ることが出来たのは、学問という観点から見て実りのある経験でした。

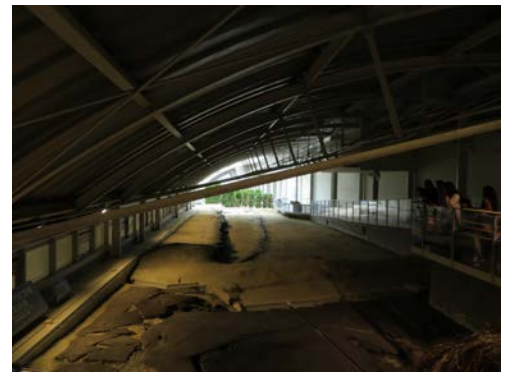
さらに、見事な歴史を物語る場所を訪れたことで日本の文化を深く理解できて嬉しく思います。中南米の国はまだ日本から学ぶべきことがたくさんあります。ありがとうございました。

(Ms. Tamara GOLER チリ)



研修旅行は仕事としても個人的な面からも、濃厚な経験でした。日本がどのように自然災害に直面し、乗り越えてきたかという事実を知ると、この国はしっかりとした対策が取られていると感じます。

私は、研修旅行を通して、ある先生が言及した「共生」という概念を思い出しました。それは私たちが自然の影響を受ける前に予測し備えなければならないことと、工学、構造、そして予防の観点からどのように自然と共存していくかを知ることです。最も効率良く学ぶ方法は、実際に起こった経験に基づくことであることは間違いありません。研修旅行で得た経験者からの体験談や教訓は、私たちの知識にの大きく貢献しました。日本は素晴らしい国であり、人々はさらに素晴らしいです。熟練性、人の質、敬意、謙虚さ、有益性、組織性などは、この国の人々、特にコーディ



野島断層



人と防災未来センター

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

バックナンバーは
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

ネーター、教師、およびこの研修を準備するために働いてくださったすべての人が持つ資質で、強調すべき点でもあります。

JICA 並びに建築研究所の皆様、素晴らしい経験をさせていただき、誠にありがとうございます。

最後に、私たちを支え、貴重な知識や情報を共有してくださった皆さんに感謝いたします。この研修旅行で得たものが、今後母国の発展に大いに貢献できると思います。



明石海峡大橋

中南米地震工学研修建築担当行政官コース修了

国際地震工学センター 飯竹理広

6月2日(金)、建築担当行政官コースの研修生は、本研修で学んだ耐震技術を踏まえて、国別に帰国後の業務改善提案の発表を終え、研修に参加した7カ国9名全員が閉講式に参加しました。JICA 筑波で行われた閉講式では、JICA と BRI/IISEE の修了書が授与され、エクアドル出身のラミロさんが研修生代表として挨拶をしました。



ラミロさんのスピーチ

この研修を通じて新しい人脈形成が図られ、中南米諸国での地震発生時の被害の軽減につながることを願います。



行政官コース閉講式